

第3章 本市における主な課題

①男性の自殺

自殺者の性別割合は男性が 65.8%（5 年間合計の割合）と、国・県と同様に高くなっています。

男性の自殺者の年齢別割合は、40 歳代から 70 歳代が多く、幅広いのが特徴ですが、新型コロナウイルス感染拡大下の令和 2 年、令和 3 年で 20 歳代の自殺者数はいずれも 2 けた台と増加しています。

自殺の原因として最も多いのは、男女とも「健康問題」ですが、次にあげられた「経済・生活問題」は男性 19.5%が女性 6.7%を大きく上回ります。アンケート調査においても自殺をしたいと考えた理由として、「経済的な問題」や「勤務関係の問題」は男性に多くあげられています。

また、自殺者の同居人の有無については、男性の同居人「なし」が 44.9%と女性 24.2%を大きく上回ります。

メンタルヘルス対策、ハラスメント防止や長時間労働の是正
失業者等への支援
居場所づくりやアウトリーチ

②女性の自殺

女性の自殺者は 34.2%（5 年間合計の割合）ですが、国・県の割合よりやや高くなっています。

年齢別の割合は 40 歳代、50 歳代が多く、いずれも国・県の割合より高くなっています。また、自殺者数については新型コロナウイルス感染拡大下で 20 歳未満が増えていきます。

女性の自殺の原因として最も多いのは、男性と同じく「健康問題」ですが、その割合は男性を 20 ポイント近く上回ります。アンケート調査では、自殺をしたいと考えた理由として「家庭の問題」が女性に多くあげられています。

また、女性の自殺者の特徴として、同居人「あり」が 74.5%と男性を約 20 ポイント上回り、国・県の割合より高くなっています。

自殺未遂歴「あり」42.9%は男性を約 20 ポイント上回り、国・県の割合より高くなっています。

一方、男女別自殺死亡率は令和 4 年に男性は減少しているのに対し、女性は増加となっています。

妊産婦及び育児、育児不安への支援
困難な課題を抱える女性への支援
自殺未遂者への支援

③若者の自殺

新型コロナウイルス感染拡大により、全国的に女性、若者の自殺者数の増加がみられますが、本市においても20歳未満の女性や20歳代の男性の自殺が増えており、同様の傾向がみられます。年齢別割合では、20歳代男性が13.2%（5年間合計）、20歳未満女性が6.7%（5年間合計）と、いずれも国・県の割合より高くなっています。

アンケート調査でも、これまでに本気で自殺をしたいと考えたことが「ある」は、20歳代や30歳代に多くなっています。

若者の就労支援
困難を抱える若者への支援
自己肯定感を実感できる場づくり

④高齢者の自殺

自殺者数に占める70歳代の割合は15.1%（5年間合計）で、国・県の割合より高くなっています。高齢者予備群である60歳代については、男性は国・県より高く、女性は国・県より低くなっています。また、80歳以上は国・県より低くなっています。

職業別割合では、高齢者に多い「年金・雇用保険等生活者」の割合は国・県より低くなっています。

アンケート調査では、悩みごとを相談しない理由として、70歳以上では「相談はしたくない」が多くあげられています。

高齢者への包括的支援
高齢者への健康不安への対応
生活不安を抱える高齢者への支援

⑤新型コロナウイルス感染症の影響を踏まえた配慮

社会全体のつながりが希薄化している中で、新型コロナウイルス感染症拡大により、人との接触機会が減り、孤独・孤立問題が顕在化しています。アンケート調査では、新型コロナウイルス感染症以降の心情や考えの変化として「不安を感じる」が高齢者や女性、若者を中心にあげられています。

孤立を防ぐ居場所づくり
不安や困難を抱えた人への支援
多様な交流の促進

⑥地域自殺実態プロフィールから

自殺総合対策推進センターが作成した「地域自殺実態プロフィール（2022）」では、重点パッケージとして以下をあげています。

重点パッケージ	高齢者 生活困窮者 無職者・失業者
---------	-------------------------

平成29年（2017年）～令和3年（2021年）の自殺者数から性別・年代別・就業の有無別・同居人の有無別に区分し、本市の主な特徴を下表のようにまとめています。

この表によれば、自殺者は、男性60歳以上無職同居が最も多く、次いで男性60歳以上無職独居となっています。第3位、4位は女性であり、40～59歳無職同居、60歳以上無職同居と続き、5位は男性の40～59歳有職同居となっています。

男女にかかわらず、高齢者で無職、40～59歳で無職あるいは有職があげられています。

川口市の主な自殺者の特徴（2017～2021年合計） ＜特別集計（自殺日・住居地）＞

自殺者の特性上位5区分	自殺者数 (5年計)	割合	自殺死亡率* (10万対)	背景にある主な自殺の危機経路**
1位: 男性60歳以上無職同居	50	11.1%	33.5	失業（退職）→生活苦+介護の悩み（疲れ）+身体疾患→自殺
2位: 男性60歳以上無職独居	37	8.2%	93.3	失業（退職）+死別・離別→うつ状態→将来生活への悲観→自殺
3位: 女性40～59歳無職同居	35	7.8%	18.6	近隣関係の悩み+家族間の不和→うつ病→自殺
4位: 女性60歳以上無職同居	32	7.1%	11.6	身体疾患→病苦→うつ状態→自殺
5位: 男性40～59歳有職同居	32	7.1%	9.3	配置転換→過労→職場の人間関係の悩み+仕事の失敗→うつ状態→自殺

資料：警察庁自殺統計原票データを厚生労働省（自殺対策推進室）にて特別集計

・区分の順位は自殺者数の多い順で、自殺者数が同数の場合は自殺死亡率の高い順とした。

* 自殺死亡率の算出に用いた人口（母数）は、総務省「令和2年国勢調査」就業状態等基本集計を基にJSCPにて推計したもの。

** 「背景にある主な自殺の危機経路」は、ライフリンク「自殺実態白書 2013」を参考に推定したもの（詳細は付表の参考表1参照）。自殺者の特性別に見て代表的と考えられる経路の一例を示しており、記載の経路が唯一のものではないことに留意いただきたい。